


令和3年4月16日

尾花沢市議会議長 殿

会派名
 代表者（無会派議員）名 和田 哲 

調 査 研 究 報 告 書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	灌賜先進視察 地域の宝に磨きかけた活性化事業現地調査
期 日	令和3年3月22日（月）～令和3年3月22日（月）
主な利用 交通機関	自家用車
実施場所	・「高島熱中小学校」 東置賜郡高島町時沢 1256-1 ・「ほほり農園」 白鷹町広野 3172
調査研究 内 容	・ほほり農園代表の新野詠斐工を訪ね、若手農業者が 取組む17年栽培の可能性を調査し、本年の新年度 事業など、農業支援を考えた話をしていく。 尾花沢市内の今後の廃校活用を考えた上で、県内で評判 の先進地である「高島熱中小学校」を視察し、NPO法人 ほほりの学校の六一、事業概要について説明を受け、 その取組み内容を調査した。
参加者	和田 哲

※添付書類：参加者全員が所感等を任意様式にまとめ添付する

政務調査 報告書

2021/04/16

(会派に属さない議員) 和田 哲

【実施内容】

- 日時 2021年3月22日(月) 13:30~14:30
- 場所 『高島熱中小学校』 NPO 法人はじまりの学校
〒992-4231 山形県東置賜郡高島町時沢 1256-1
- 目的 尾花沢市市内の今後の廃校活用を考える上で、評判の先進地を調査するため。

高島町では、2010年に小学校が1つ、2015年には中学校が4つ統廃合された。学校の消失が及ぼす地域への影響に危機感を感じたメンバーにより、もういちど7歳の目で大人が学ぶ学校「熱中小学校」が、旧時沢小学校を利活用して2015年10月3日に誕生した。ここでは幅広い分野の講師(現在250人以上)から授業を受けることができ、現在のコロナ禍においても感染症対策としてオンライン配信の強化をすることで2021年4月新入生を募集している。また、日本全国に姉妹校を展開し、14ヶ所の学校で総勢1,000名以上の生徒が在籍している。

☆熱中小学校のビジョン

1. 起業家マインドの育成
2. 里山文化の体験、都市部との交流・移住促進
3. 最新技術との出会いの場
4. 地域貢献・地域のコミュニティづくり

学び×交流=挑戦

授業料：10,000円(60歳未満) 20,000円(60歳以上) 1クール：6ヶ月

サテライトやインキュベーションに関連する企業が、オフィスとして教室や給食室などを利用し入居している。

《企業一覧》 2021/03/22 現在

株式会社 360°	教室
株式会社 森の学校/株式会社 WILL	教室
株式会社 ファイン	給食室
有限会社 3DAL	教室
グリーンパワーテクノ株式会社	教室
株式会社 和のくらし文化研究所	教室
株式会社 ル・セル	図書室
リーンプローチ	教室

1社あたり60,000円/月(1年契約)

※3年目までは半額で契約ができる。光熱水費込み。

○所感

現在の、本市における廃校の利活用の実例は、公有財産として取り扱う割合が大きいと感じており、企業支援への結び付けにもっと注力が必要と考える。

特に、旧荻袋小学校は公有財産として『無償貸与』しており、しかも5年間で1社のみが建物・土地を貸切り契約（初回契約から契約更新済み）しているが、これでは利活用の可能性を塞いでしまっているのではないかと懸念する。

今回の視察先のように、サテライトやインキュベーションに関する複数の企業との関係を築くことは、東京一極集中から地方分散への動きが加速した場合など、新型コロナウイルス感染症終息（収束）後を見据えた取り組みとなり、幅広い年齢層の方のふるさと回帰や活躍が期待できると感じる。さらには、教室を事務所とすることは、創業支援して非常に充実していると感じる。

これからの尾花沢市空き公共施設解体計画や学校の統合・廃校について検討を重ねるにあたり、今回の視察内容は参考となった。

政務調査 報告書

2021/04/16

(会派に属さない議員) 和田 哲

【実施内容】

○日時 2021年3月22日(月) 15:30~16:30

○場所 『ほっこり農園』

〒992-0851 山形県西置賜郡白鷹町広野 3172

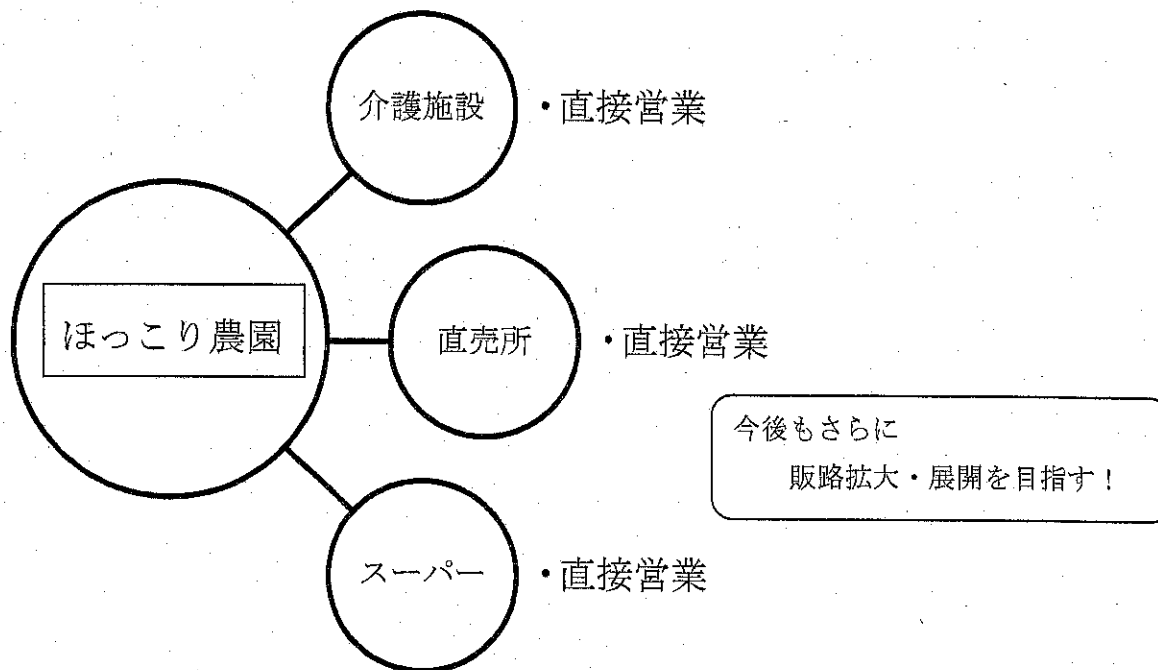
○目的 若手農業者が取り組む周年栽培の可能性を調査し、本市の農業支援を考える。

ほっこり農園代表の新野詠幾(にいの えいき)さんは、「食卓に美味しい小松菜を届けたい」「給食で子どもたちに安全な小松菜を食べてもらいたい」「介護施設で生活を送る方たちに小松菜を食べて元気になってもらいたい」との思いで、ハウスと露地栽培を組み合わせ、年間を通じて野菜を栽培している。

約6年前に農業未経験からスタートし、現在はパート2~10名と力を合わせ、周年農業の可能性に挑戦していた。

～特徴～

☆販路はJAを通さない直接取引・販売



☆ハウス1ヶ所あたり年4回の栽培・収穫・販売を行う。(基本的には、夏場3・冬場1)

☆二重ハウス

☆小松菜などの周年栽培は、経験を重ねる機会が多い。(スイカは年1回)

○所感

農業は未経験だった代表の新野詠幾（にいの えいき）さんは、独学で習得することを軸としており、その手段としてインターネットを活用している。

本市の農業支援については、「手取り足取り」「継続した財政支援」さらには「保障」までの内容に関する要望が、議員側から多いと感じていた。市全体の予算配分の観点からも、農業支援が目立ってきている。もちろん災害等については継続した支援等が必要だが、今回の視察先のように、戦略的な農業経営に取り組みに対して後押しをする支援がこれから必要と考える。

本市の令和3年度事業においても新規就農支援に注力している。実態をよく検証していかなければならないと感じた。